

トラベルタイム

2018年(平成30年)

12月17日

月曜日

この紙面を企画、取材、執筆した
私たち
ツェー フォンジェン
グオ チンシン
ガオ ワンユン
フィハニ

一乗谷 という文化財

一乗谷朝倉氏遺跡は、福井県福井市城ノ内町にある戦国時代の遺跡である。戦国時代に一乗谷城を中心に越前国を支配した戦国大名朝倉氏の遺跡。一乗谷城と山麓の城下町(朝倉氏および家臣の居館)からなる遺跡全体(面積27.8ヘクタール)が国の特別史跡で、そのうち4つの日本庭園は一乗谷朝倉氏庭園の名称で国の特別名勝の指定を受けている。それは――



- 朝倉館跡庭園
 - 湯殿跡庭園
 - 諏訪館跡庭園
 - 南陽寺跡庭園
- 一乗谷を縦横に走る道路に沿って、武家屋敷、寺院、商人や職人達の住む町屋などが所狭しと並んでいる(グオ チンシン撮影)



一乗谷で 歴史を楽しむ

一乗谷朝倉遺跡は毎年様々な公開展とイベントがある。その中には、毎年8月に同時開催される「越前朝倉万灯夜」と「越前朝倉戦国まつり」というイベントが最も大きい。20日が朝倉氏の最後の当主の命日なので、毎年8月の25日の前後の土日、三日間ほど祈りのために祭りをする。越前朝倉戦国時代行列、朝倉氏五代追悼法要、吟舞、剣詩舞、百戸田吾作爆笑ステージ、日本武道披露、火縄銃砲演、一乗谷の祭典のほかに、復元した町並が、その光で浮かび上がる「越前朝倉万灯夜」が見どころである。

復原町並において、武士とその家来、商人、町人等、様々な身分の人々が当時のまま暮らしている様子も、朝倉氏遺跡の出土遺物や『洛中洛外図屏風』等の歴史資料による時代考証を踏まえて演出する。また、当時の城下町で売買されていた商品も実際に販売する(ガオワンユン撮影)

このイベントでは、戦国時代の武士の衣装が朝倉氏とアザイ族の連合軍を再制定し、戦国時代についての現代人の理解を深めている。この歴史的な再現イベントは、現代人のために特に歴史があまり好きではない人にとつて重要だと思える。祭りでは様々なイベントを楽しむことができるので、同時に過去の歴史について少し学ぶことができる。また、国家遺産への意識を高め、感謝を促す方法の一つである。

「ここに着いたばかり時、一本当り天然だなあ」と思った。当時の武家屋敷や庶民の住む町屋などが映画のセットのように再現されている。家々の中も見学ができ、台所や井戸、中庭、厨など、当時の暮らしの様子をリアルに感じることが出来る。また、侍の甲冑やお姫様の小袖の着付け体験ができるコーナーがある。当時の衣装に着替えばタイムトリップ感を味わえるみたい。本当にユニークだ」



印象に残っているのはその大きい規模だった。現代と違う様々な部屋がたくさんあって、その中で私達が知らない家具も何かをしてる昔の人の肖像も色々ある。井戸も便所もちゃんと保存されて、現代の人もその時の暮らしを想像できる。そこに行ったらまるでその時代に持ち込んで行った。

「(30代) 和太さん

戦国時代の歴史に熱い思い入れのある人はもちろん、歴史にあまり興味がない人でも十分楽しめるスポットだ。周りの場所はとも静かである。自然もきれいだ。古い建物が残っている。「復原」したもので、一乗谷朝倉氏はそのまま遺されている。奇跡の遺構だ。今まで行った日本の観光地と比べると、違う意味で見える価値ありだと思える。

「(40代) 草野さん

「(50代) 田中さん

観光客の声を聞こう！

ユニークな

一乗谷朝倉遺跡

一乗谷朝倉氏遺跡資料館館長 月輪泰さんに聞きました



残念！ 若者は文化財離れ

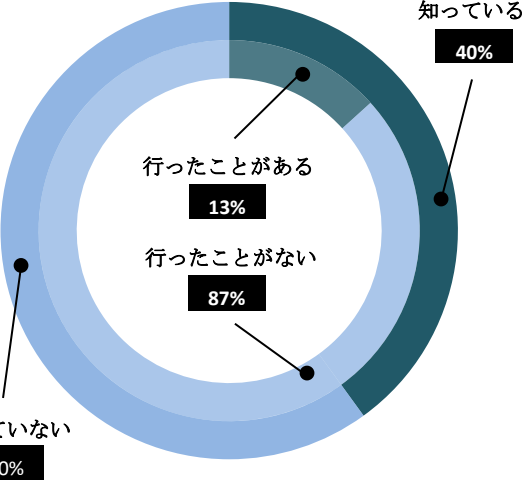
国にしっかり守られている文化財なのに、現代の若者が興味を抱くとは思えない。歳をとれば趣味趣向が変わるといふ意見もあるが、娯楽と情報に豊富にある時代に育った世代に、そもそも文化財とは何か？

「この世界にいるとよく『文化財を守る』という言葉を聞く。日々ライフスタイルは変化している。例えば、インターネットがなかった時代と現在では求められるものが全く異なる。そんなライフスタイル変化によって、どんなにその文化財が素晴らしいとしても、若者にとっては、必要がなければ縮小に向かってしまう。つまり、世界の変化に合わ

せ対応し、常に需要を生み出せる文化だけが存続していると言っている。文化の中心的存在が高齢化し、担い手が不足することで衰退することも多い。特に、高い技術が必要とされる工芸や芸能などで多くみられる。高齢になっていくのは文化の発信側だけでなく、ユーザー側も同時に高齢になっていくことも課題だ。つまり、文化の衰退を食い止めるには若者の育成は必須だ。またそれ以前に、その市場自体に若者が魅力を感じているかが重要なポ

イントになってきている。そして、最も重要なのがこれ。調べて一番多く見られたのは、この「お金を生み出せない」ということだった。伝統文化には必ず何かしらのメリットがあり、普及してき歴史がある。そこには、感動や魅力という精神面以外に、商業的な成り立ちも深く関係している。どんなに価値のある素晴らしい文化も、価値にリターンがなければ存続していけないのだ。「ポラントニアアベス」で考えると、若者は素晴らしいが、10年20年は続いても、100年200年と

いうスパンで未来を考えると、厳しい。つまり、文化は「生み出すこと」を表現することと同じ時に「それを提供し対価を得ること」という努力が、必ず必要なのだ。不遇な場合の衰退は、数年後に復活する例が多かった。人々が高い意識を持っているときは、人為的であれ天災であれ、力で潰されても這い上がる力を持っている。だから、文化財の魅力の衰退を食い止めるには若者の支持を受けるのは必須である。またそれ以前に、その自体に若者が魅力を感じているかが重要なポイントになる。



日本の有名な古い町がたくさんある。しかし、一乗谷朝倉氏遺跡東京や京都などの遺跡と比べると、お城だけ、お寺だけ、お庭だけ、昔のお屋敷だけなどのようなものがある歴史の場所があるんですけど、全部が一つのところで見ることが出来るというのにはほかではないと思う。それはユニークなところだと感じる。道員、数珠、金のかざりをつくらせていた職人の家などもあって、どんな人が住んでいたのかどんな人がいたのか分かる。それは魅力的なところだと思える。